

全日本私塾教育ネットワーク

# 私塾ネット広報

第68号(令和元年11月号)



いのち

生命の木みのり葡萄の酒となり (直人)

全日本私塾教育ネットワーク

センター事務局 鈴木 正之

〒140-0014 東京都品川区大井1-54-6 いぶき学院内

TEL:03-5743-7458 FAX:03-5743-7459

理事長 仲野十和田

TEL:03-3963-5572

広報部長 大住 明敬

## 理事長コラム



10月12日（土）。夜から超大型の台風19号が東日本を襲いました。千葉県、長野県を始め各地で被害に遭われた方々、慎んでお見舞い申し上げます。

私は翌朝（13日）、倉敷で行われるコンソーシアム会議に出席するため、午前中の新幹線を予約していましたが（東海道新幹線はなんと始発から通常運行）、在来線が動いていなかったので、午後の新幹線で向かうことになりました。東京駅は大混乱で、店頭には一切食料はない状態です。14時から始まる会議にはあいにく出席することはできませんでしたが、倉敷の駅から会場となるホテルまでの「美観地区」をのんびり歩くことができました。倉敷は初めての訪問でしたが、素敵な街でした。

さて、ホテルに到着すると、この日はラグビーの『日本対スコットランド戦』があったので、観戦することにしました。試合はご存知の通り、手に汗を握る好ゲーム。この時ほど日本人が横について欲しいと思ったことはありません（笑）。ゲーム終了後は、家に一人でいる妻と、スポーツBarで観戦していた娘と、感動を分かち合いました。翌朝、鈴木正之夫妻が同じホテルに泊まっていたことを知り、「一緒に見たかった…」。

14日は（公社）学習塾協会主催の「塾の日シンポジウム」。特別講演はAI研究の第一人者、松尾豊氏。「自分に限界を作らない」ということを何度も言っていたのが、印象的でした。エリア四国、エリア中国の方々にもお会いすることができて嬉しかったです。

10月20日（日）。私塾ネットエリア関東研修会。NPO塾全協さんの若い方々にも多大な協力を得て、開催しました。テーマは「発達障害」。特別支援教育士の伊川夢起氏の講演で、疑似体験から発達障害の子どもたちの気持ちに近づいてみるなど、興味ある内容でした。参加された方々には、とても好評だったようです。

さて、この日は、ラグビーの決勝リーグ初戦『日本対南アフリカ戦』。私たちの思いを察してか…、若い先生たちが、テレビの見られる居酒屋を予約してくださり、皆さんで観戦することができました。感謝です。結果は残念でしたが、心を一つにして応援することができ、スポーツの素晴らしさを再認識しました。また、ラグビーのフェア精神が私たち日本人にとてもマッチしていたと思います。隣にいた正之先生は公式ラグビーのボールを購入しての観戦でした。

11月4日（月・祝）。NPO全国学習塾協会主催の研修大会が大阪、道頓堀ホテルで行われました。講演は北京オリンピック陸上400mリレー銀メダリストの朝原宜治氏。今の選手たちが結果を出すのは、SNSなどの普及で、普段から仲良しであ

る一方、試合の時はライバル意識を持ち、お互いが尊敬しあえていることが大きな要因だと言われていました。前述のラガーたちの活躍も同じような要因があるような気がします。コーチたちの指導方法も昔とは随分違ってきています。

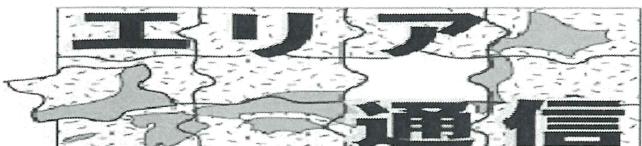
さて、最後に私の大失態をシェアします。懇親会後、街へ繰り出したのですが、なんと、大事なバックをあるお店に置いてしまいました。数時間後に気付き連絡をしたところ、既に遅く、翌朝までカードを止める作業が続きました。幸いカードは使われずに済みましたが、被害は①クレジットカード8枚②キャッシュカード2枚③通帳2冊④銀行印、実印⑤現金・商品券など何とも情けない話です。失くして大変な思いをするのは、通帳関係です。通帳とキャッシュカードがないと、2週間近くお金が動かせなくなる可能性があります。つまり、給料などの支払いができなくなるということです。幸い主たる口座のキャッシュカードは、家に置いてあったので、事なきを得ました。また、カード関係の番号はスマホで確認できるようにしていたので、それは不幸中の幸いでした。

実はこの私、本当にドジで、以前、私塾ネットの10周年で講演をしてくださった、上甲晃氏の率いる研修旅行でイギリスへ行ったとき、窃盗団にパスポート（翌日帰国予定なのに）も入っていたバックを盗まれました。そして、警察を呼び、一通りの検分が終わって、終了間近の最後の晚餐へ行ったところ、上甲氏が以下のようなことを言ってくださいました。「取り返せるものは、また一生懸命働いて手に入れればいい。だけど、取り返すことができないものは命がけで守りなさい」と。当時、この言葉に救われたのですが、今一度その言葉を思い出し、明日への一歩を踏み出したいと思いました。

そして、ラガーマンが取られまいと守ろうとしているボールのように、「信用」や「信頼」はしっかりと守っていきます。



塾全協東日本ブロック理事長の内藤先生と倉敷美観地区を散策



エリア中国 西本 雅明  
(パワーゼミ西本・広島県)

今年は台風19号により中部・関東・東北など各地で甚大な被害がありました。昨年は中国地方で水害があり、毎年のようにどこかで大きな災害が起きているようです。広島県内でもまだ回復できていない地域もあり、倉敷市真備町には災害時のままの廃屋が未だに多く残っています。今まで瀬戸内地域は天災の少ない地域だと信じ込んでいましたから、このような状況を見るにつけ、自然の恐ろしさを他人ごとではないと改めて感じています。

この度、被害にあわれた皆様には心よりお見舞い申し上げます。

さて先日、岡山県の倉敷アイビースクエアにおいて公益社団法人全国学習塾協会の「塾の日シンポジウム」が行われました。私塾ネットから、いつものように大勢の先生方がご参加くださいまして、実行委員の一人として携わった私にとりまして、私塾ネットからの大きなバックアップはとても心強かったです。本当に有難うございました。来年の会場は仙台だそうです。全国大会の準備は本当に大変でしたが、私とは違い東北の先生方は慣れていらっしゃるので安心しています。イベント慣れしていない私などは、終了後一週間くらいは何もしたくない程でしたし、どちらかと言えば学習塾協会を辞めたいと思ったほどでした。担当が数年後に回ってくると想像するだけでも、気持ちが落ち込んでしまいそうです。

暗い話はここまでにして私塾ネット中国のお話をいたします。前号で11月は研修会をするという内容を投稿いたしましたが、私の力不足で適当な講師が見つからず、メンバーのご要望で楽しい忘年会をしようということになりました。11月10日、11日に広島リーガロイヤルホテルにおいて、できれば夫婦同伴という緊張マックスの忘年会を開催します。お酒を飲んで羽を伸ばしたいのに隣に妻がいるという、アクセルを踏みながらブレーキを踏むという、家庭内での安全ガイドラインを試される会ですが、西川先生（ノーベル学習館）の企画ですから、少しエッチ（西川先生の長所）で少しリッチな楽しい会になりそうです。後日、ご報告を楽しみにお待ちください。



エリア四国 木内 恒裕  
(木内塾・徳島県)

### 教育現場あれこれ

#### ◇ 大学入試について

10月の声が聞こえると、毎年大学入試に向けての話題が出てきだが、今年は2020年度から始まる大学共通テストに関するものが多いと感じられる。数学・国語の記述式問題もさることながら、英語の試験に関する諸問題が指摘されているにも拘わらず、文部科学省は納得できるような解決策を打ち出さず、そのまま新制度のテストに突入しようとしている。

英語は各種の民間テストを採用するとの事だが、本当にこんな状態でいいのだろうか？学校現場の高校の先生達は対応に大変だと聞いているが、塾の方でも同じではないだろうか。私の塾では、高校1・2年生に対しては、とりあえず今まで通りしっかりと基本を固めた読み書き中心の授業を続けて行き、各大学の個別試験にも対応できる力を養いたいと思っている。

#### ◇ 学校現場での教員間のいじめ問題について

最近、神戸市と奈良県の小学校で、次々と教員同士のいじめ問題が大きく報道された。児童間のいじめ問題を指導する立場の先生が、仲間同士で子供達と同じような、いやもっとひどい、犯罪と思われる行為を続けていたとは、情けないというか腹立たしい限りである。先生という立場以前の、大人としての自覚はどこへ行ってしまったのか。恐らくこうした問題は氷山の一角に過ぎないと思う。大きく表面化しただけの事であろう。

当地の私の知人の娘さんが中学校の教員をやつていて、ここまでひどくはないが、同僚の複数の女性教員（当然娘さんよりは年上）に言葉で度々いじめられて、鬱になりそうだと嘆いている。また他の若い女性教員も同じ人達からいじめられているという。

女性には大変失礼だが、世間一般でも、男同士よりも女同士の方が陰湿ないじめが多いのはよく知られている。つまらない事にエネルギーを使うよりも、女性特有の優しさで生徒達の教育にこそもっと情熱を注いでほしいものである。

このことは学校だけでなく、塾業界でも十分にあり得る話である。ただ、学校と違って塾の場合は、先生達は学習面の仕事がほとんどで、雑多な事務処理や多くの行事等とはあまり関係がなく、相互の接触時間も限られて來るのが幸いであるが、大いに気をつけたいところだ。

#### ◇ 中学校の数学の問題について

当地の最近の中学校の定期テストの数学の問題では、文章題の文章がかなり長くなる傾向にある。恐らく大学共通テストや新指導要領を踏まえての、文部科学省の方針に沿ったと思われるが、日常での

現象や場面を例にして、やたらと長い説明になっているのが気になる。質問にたどり着く前に息切れしそうで、読み取りに大変苦労するだけで、果たしてこれが必要な力を試すことにつながるのか、大いに疑問である。

小学校時代からの国語における正確な文章の読み取り力が、ますます求められる感じである。

論理的文章（これらはそこまで高度ではないが）の読み方とは、英語の読解（英文解釈としての）に通じるものがあると、私は考えているので、今後の授業にもこの考え方を生かして行きたいと思う。



エリア東北 扇野 昭弘  
(学習塾TRM登龍門・青森県)

関東・東北合同湘南研修に参加して

合同研修に初めて参加して参りました。

初めての横浜中華街でした。

ここに青森の中学生たちは自主見学で来ていたのか、子供が来るような場所ではないなと思いながらも、おいしい食事を堪能致しました。

慣れた先生方が、次々と注文してくださいましたので、本当に助かりました。

中華料理の難しさを実感しました。

また、自由時間もあり山下公園の散策も楽しかつたです。

気さくな感じからの懇談会が始まりました。

NHKで放映された初期の学習塾のストーリーの三日月の話から、学校の先生との対立の話でした、そこから発展し、私の現状の話をさせていただきました。

当塾では夏休みの間、180時間以上過ごそうという目標で頑張りました。

トップは、272時間という快挙、26人中15名が達成できました。

青森では、大イベントねぶた祭が1週間あります。

また、北国では1週間夏休みが短いです。

その短い夏休みに、180時間を過ごすことは、とても大変でした。

しかし、学校の先生が180時間も勉強してどうなるの?とか、時間ではなく、内容だとか、毎回授業でいじるそうで、生徒たちは毎回馬鹿にされてい



る、もう学校へ行きたくないとまで言い出しました。

困った私は、○○中学校の××先生、180時間を馬鹿にするのはやめて下さい。と紙に書き、窓に張り出しました、1週間後、その中学校の校長先生から電話があり、校長がその先生に注意をする約束で張り紙をはずしました。

その経路を話していると、神奈川の先生方が、その場合は直接学校へ行かなければいけない。

学校へ行って、直接先生へ言って、話が通じなければ、校長先生、そして、教育委員会と段階を踏んででも、動かなければいけない。

神奈川では何度も直接学校へ足を運び、校長会で調整されていた高校入試を、子供たちの希望が取り入れられた高校入試にしました。また、実得点の開示だけでなく、解答用紙の公開までできるようになったと聞きました。

今までは、そのような大人にならないようにすることが大切で、我慢することも大切と、子供たちに言い聞かせていました。

しかし、これからは、こんな事を言ったのですか。と直接確かめに行く勇気を持ち、言われたことを我慢するのではなく、ダメなものはダメと弁護士を連れて行ってでも発言することが、子供たちに指導する者の義務と教えられました。

その通りだと、とても勉強になりました。

何か、自分の中で大きくなつたことを感じた研修会でした。

この場を借りまして、晩御飯の料理、朝ご飯の料理、最高でしたありがとうございました。

また、来年も参加したいと心に誓つたことを覚えていています。

また、翌朝、柳田先生と湘南の砂浜を二人で走ったことも、素晴らしい思い出として心に残っています。また、一緒に走りたいですね。

ちなみに、1週間後の100キロマラソンは、仙台にて30度を超える気温のため、25キロあたりから、異常なまでの汗と睡魔に襲われ、45キロの関門を通過することができませんでした。とても残念でした。来年こそはと思っています。



懇談会の始まる前、湘南を散歩した時の渚の風景、よく晴れて、気持ちが良かったです



## エリア関東 渡辺 浩 (渡辺塾・東京都)

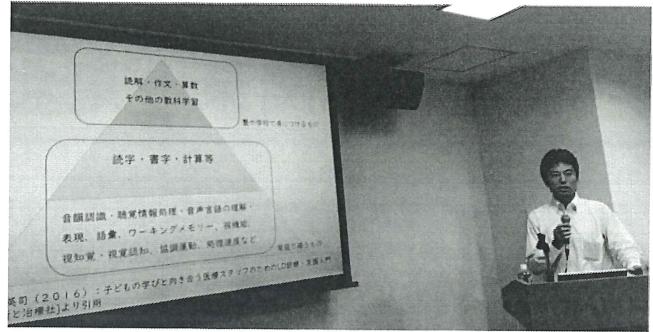
毎年9月以降は週末になると何らかの研修やイベントが入り、一際休みがなくなる。何十年も続いているので家族も慣れたもの、日曜日・祝日はいないのが当たり前だと思われている。それもちょっと寂しいのだが、、、

9月はNPO塾全協さんの進学相談会にお手伝い要員として朝から参加させていただいた。今年は昨年よりもはるかに上回る来場者数で、恐らく毎年8月に行われる私学協会主催の進学相談会が今年は東京五輪の関係で場所の都合がつかず、いつもより5分の一定程度の規模になってしまったことも影響していると思われるが、やはり実行委員の先生方のご準備から当日の運営など、私塾ネットにはない規模のイベントなので、それはそれは大変な思いをされて運営をされているからだと思われる。イベントの流れや人の動員など、様々方面で勉強させていただいた。

10月は学習塾協会主催の塾の日シンポジウム。今年は岡山県倉敷アイビースクエアで行われた。こちらも中国四国支部の先生方（実行委員長はじめ実行委員の先生方）の前日までのご準備と当日の運営には脱帽でした。また、講演では東京大学大学院の松尾先生からAIについてお話がありましたが、若干専門用語が多く内容が難しいところもありましたが、AIの時代が来ることは間違いないと思われる所以、今から知識をはじめ準備をしなければならないと強く感じた。因みに、ちょっと抜け出して倉敷美観地区を散歩したことはココだけの話。（笑）



さらに翌週には私塾ネット関東とNPO塾全協賛のコラボ研修企画として、『インクルーシブ教育』について講演とワークショップを行った。簡単に言うと、学習障害や発達障害の生徒さんが塾

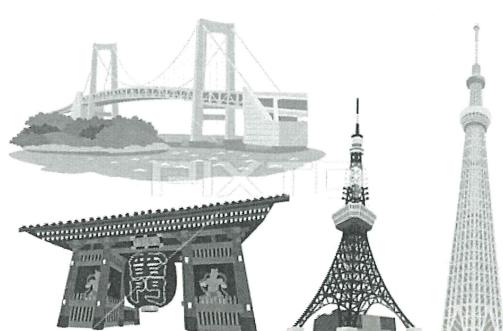


に入ってきたときに、皆さんはどうに対応していますか？配慮のつもりが排除していませんか？本当の合理的配慮とは？といったかなりリクエストの多い研修内容でもあった。前日までご準備いただいた研修部長の宮澤先生、当日の講演と進行を務めていただいた柳田先生。そして、ワークショップを行っていただいた宇都宮LDセンターセンター長の伊川先生には感謝申し上げます。ありがとうございました。自塾でも反省すべき点、改善しなければならない点、変えなくて良い点などが浮き彫りになった。

最後に11月4日、大阪道頓堀で行われたNPO塾全協賛主催の全国研修大会。講演は北京五輪銀メダリストの朝原宣治さん。五輪後も若手の育成や子供たちの運動育成に携わっていらっしゃる関係で、人材育成についてスポーツの面から貴重なお話を伺うことが出来た。「若手に五輪や世界大会などの明確な目標を持たせ、それを見せ続けること。それが成績を伸ばす一つの方法である。」と朝原氏は仰った。塾の世界でも同じではないだろうか。本当に生徒一人一人に明確な目標を持たせられているだろうか。目標を示すだけで、見せ続けているだろうか。学力だけでなく精神面や健康面などのトータル的なマネージメントが出来ているだろうか。正直耳が痛かった。これから本気で生徒一人ひとりのトータルマネージメントをするべく東京行きの新幹線に乗り込んだ。



塾全協の重鎮方。奥から会長の沼田先生、手前左は東日本ブロック理事長の内藤先生、そして右は中堅メンバーのリーダー役の星野先生。



## エリア関東・東北共催 茅ヶ崎懇親旅行

今年もステップ龍井先生のご厚意に甘えて、9月1日に茅ヶ崎のステップの宿泊施設を利用して、1泊の懇親旅行を行いました。

総勢16名。エリア東北からは安藤先生、扇野先生が、四国からは湯口先生が遠方より参加されました。

東京駅のKITTEタワーに集合し、渡辺代表の車、岩瀬先生の運転する2台の車でまず向かったのは横浜中華街。中華食べ放題を満喫し、地元の中村直人先生のご案内でぶらりと散策しました。中華街は、日曜日ということもあり、人が多く、賑わっていました。扇野先生は山下公園を、安藤先生は、マッサージを満喫されたようでした。

それから柳田先生も合流し、ステップの研修施設へ向かいました。すでに高橋先生、湯口先生が夕食の支度をされていました。龍井先生からご挨拶を頂き、安藤先生ご発声の乾杯で夕食が始まり、今年も讃岐うどん、お刺身盛り合わせをはじめ、豪勢なお料理の数々。すばらしいおもてなしにいたく感動しました。

時期が9月最初の日曜日ということもあり、2期制の地域では前期期末テストが重なり、参加できなかつた先生方もおられたのは残念でしたが、研修抜きの懇親旅行ということもあり、教育談義など密な時間を共にできました。夏期講習の疲れも一気に抜けました。

翌日、朝食も用意して頂きました。再会を誓って、それぞれ茅ヶ崎駅で解散いたしました。

施設をお借りしたステップの先生方、差し入れをしてくださった先生、ありがとうございました。また宜しくお願ひいたします。

報告：エリア関東総務部長 長江広紀（英数学院）



会場は茅ヶ崎海岸にあるステップさんの研修施設、豪華さにビックリ

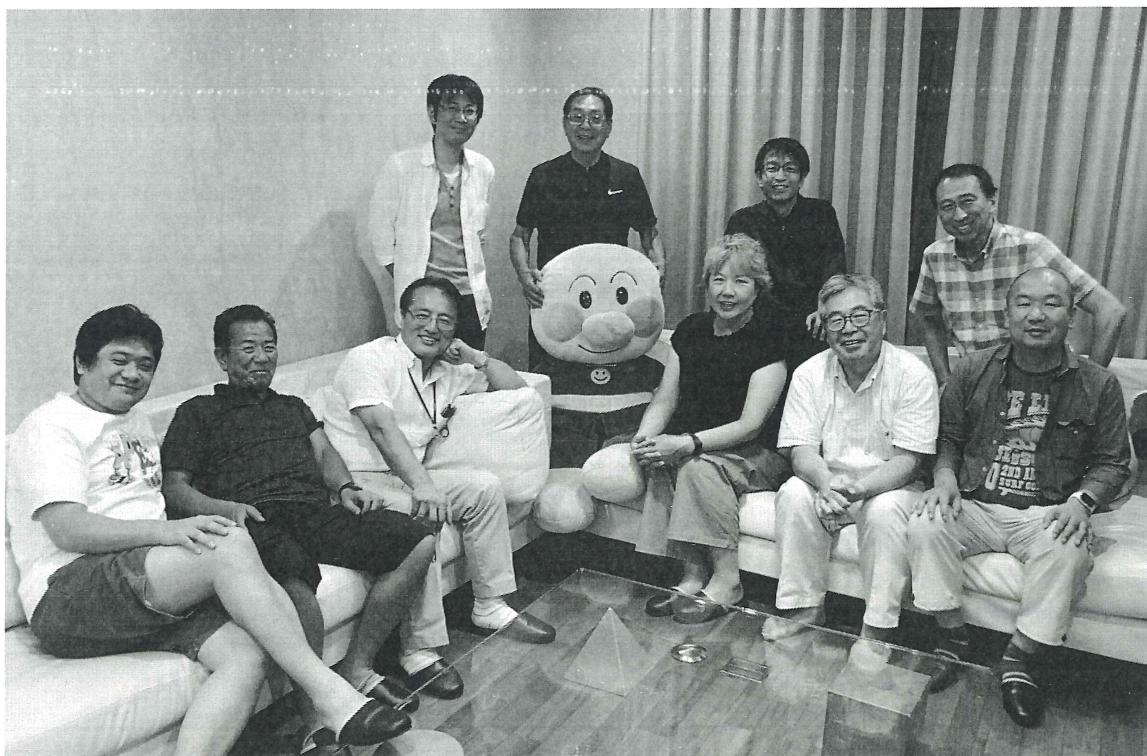


↑懇親会スタート、乾杯の音頭は青森県八戸の金髪のアンディさん

↓左 皆さんで記念撮影、ところで真ん中の丸顔の方はどなた？

↓右上 調理の腕を振るうのはステップの高橋さん、プロも真っ青

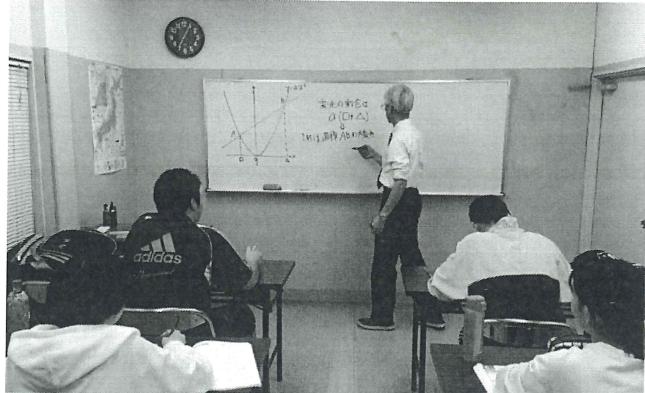
↓右下 青森の銘酒「田酒」を持ち込まれたのは扇野さん



## 塾・現場報告その⑤

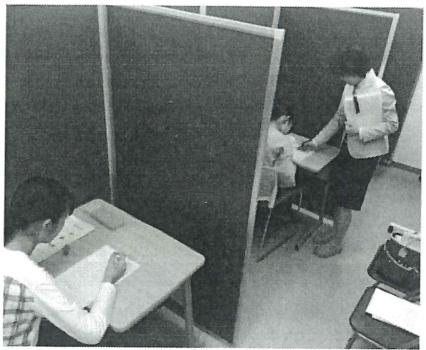
エリア四国 進学センター栄進舎(徳島県) 代表 千田裕三

徳島はセンター試験は全国45位と極めて低く、県知事もこのことは完全にほうかぶりして改善の努力もない状態です。当校はこの様な状況の中で、できるだけ上位の学校へ進学させたいと願い、生徒さんの指導にあたっています。絶対的な進学校のない



四国唯一の県の中で、一人ひとりの生徒さんに意識付けをして、でき得る限りの個別対応を取っています。スタッフもベテランを揃え、科目別の指導を緻密に行い、少しでも本県の状況改善を目指しております。

レッスンとしては10人規模のグループと3人一組の個別、1対1の個別を組み合わせて、集団と個別の両面から教務を行っています。少しでも本県から実績が出ることを願いつつ、スタッフ一同頑張っています。



## 塾・現場報告その⑥

エリア関東 ナカジュク(東京都) 代表 仲野十和田

### ナカジュクの取り組み

#### 芋ほりイベント「収穫祭」

5月に苗植えを行ったお芋(紅あずま600株)の収穫を10月に行うのですが、今年は、19日が台風、22日が大雨で、延期の延期。やっと26日に“おいもちゃん”を外へ出してあげることができました。通常10月は天気が良いのですが、ご存知の通り、今年の10月は雨続き。お芋が土の中で悲鳴を上げていないかが心配でしたが、何とか元気にして出て来てくれ、毎月蚊に刺されながら雑草取りをしてきたスタッフの苦労も報われました。芋ほりでは、きれいさと重さを競う、「芋コンテスト」があるので、生徒たちは、途中、ミミズや虫たちと出会い、ギャーギャー言いながらも、スコップで慎重に掘り起こします。

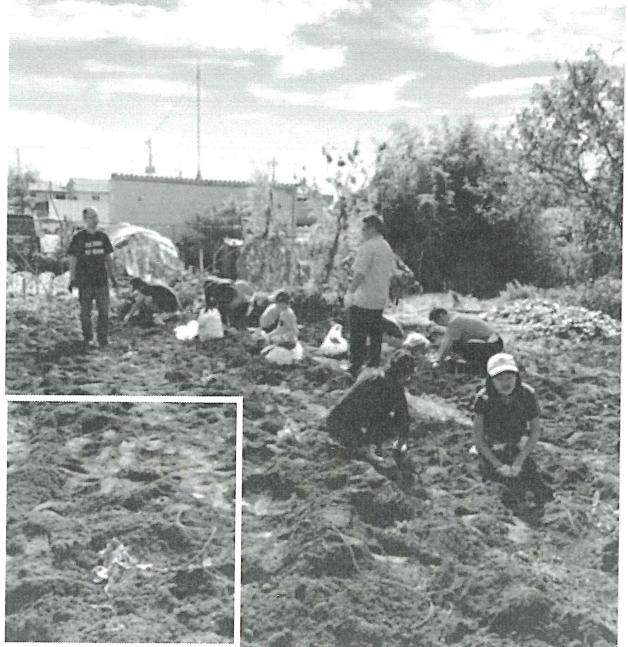
そして、5月に植えた苗が立派なお芋ちゃんになっている姿に、少なからず感動しているようです。また、前もって掘っておいた芋で、石焼きいも、大学いも、スイートポテトなどを作つておき、当日は鉄板で、焼きそばやガーリックチャーハン(これを目当てに来てくれる生徒もいます)を作り、楽しみました。さらに、今年は豊作で、小学生では持ちきれないほどの収穫でしたので、「先生たちにもおくれー」と言って、分けてもらいました(笑)。

いつからか、だいぶ参加する生徒も減り、続けるかどうか悩むこともありましたが、数年前、塾のブログの書き込みに「あのときの畑で食べた味が忘れられず、現在、東京農大で農業の研究をしています。」という卒業生の書き込みがあり、やれる限りやってみようという気持ちで行っています。保護者の方が率先してお手伝いくださり、ご家族や外部の生徒も自由に参加できるようになっているイベントです。

大きなオイモで、コンテスト入賞をねらうわよ！→



「収穫祭」ではバーベキューも楽しみの一つ、先生たちも腕をふるう。





## 私塾ネット関東・塾全協東日本ブロック合同研修会 テーマ「塾におけるインクルーシブ教育ってどんなもの?」

日 時 10月20日(日) 14:30~17:00

場 所 ワイム貸会議室 お茶の水 ROOM D

参加者 38名(私塾ネット16名・塾全協15名・その他7名)

報告 柳田浩靖(日米文化学院)

内容 ①「インクルーシブ教育とは?」

講演者 柳田浩靖

②「LD・HD体験プログラム」

講演者 伊川夢起

(宇都宮LDセンター長・特別教育支援士)

**雑感** 今回の研修は私塾ネット関東と塾全協東日本ブロックとの初の合同研修会。その記念すべき研修内容は、まだまだ塾業界において浸透しているとは言い難い「インクルーシブ教育」であり、私塾ネット関東研修部長・宮澤歩先生(秀英ゼミナールSS)の肝いり企画であった。しかし、その研修直前、宮澤先生のお身内にご不幸があり、急遽「インクルーシブ教育」について熱く語るパートを私が担当する運びとなった。

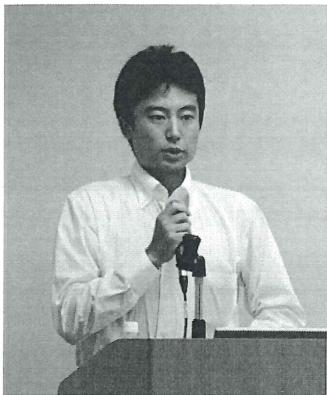
インクルーシブ教育とは大まかにいえば「障害のある子供とない子供が共に教育を受けること」である。ここで大切なことは身体的障害のある子供はもちろん、いわゆる発達障害の子供に対しても「合理的配慮」を行う必要がある、ということだ。しかし、ADHDやASDなどの発達障害は「見えない」障害であり、インクルーシブ教育を行う前提として、そもそも発達障害とはどのようなものであるかを知

る必要がある。発達障害という診断を受けていないとも、その様な子供達が現に存在していることは皆さんお気づきであるとは思う。しかし、そこに目をつぶったまま従来型の授業を行っているとするところ。目標の一つとして「成績を上げること」を掲げていない塾はないと思われる。その目標を、発達障害を持つ子供達でも達成するためには「合理的配慮」は不可欠なのである。

では、その「合理的配慮」をどのようにしなすべきか?そのことを、発達障害の子供達が見えている世界を疑似体験することで模索してみる、というのが伊川先生のワークショップであった。参加者は非常に多くの刺激と示唆を得られたと思う。子供の特性を理解した上で(例えばADHDの子は視覚的には強いことや自閉症の子は行為の意味付けが必要であることなど)、授業内で問題を解く際のハードルを下げてあげるという点で具体的な方法論が満載であった。

発達障害については近年、保護者の間でも認知が広がりつつあり、実際その様な障害を持つ方からの問合せも増えている。「インクルーシブ教育」についての理解を深めることは、今後の塾経営を行う上で新たな可能性をもたらすのではないか?その様な意識が参加者の方々に芽生えていれば幸いである。





講演者 伊川夢起（いがわゆめき）氏プロフィール  
 ・平成2年生まれ29歳、1児の父  
 ・千葉県と栃木県で3社を経営する（飲食2、塾4、福祉6）  
 ・特別支援教育士、電気工事士  
 ・趣味は野球観戦、海外旅行  
 ・宇都宮JC所属



↑研修会を取り仕切った私塾ネット3人衆、右から司会進行長江、講演者のお一人柳田そして渡辺エリア関東代表

↓研修会の冒頭でいさつに立った仲野センター理事長、お隣りは沼田NPO塾全協全国会長

体験プログラムに取り組む塾全協の沼田さんと稻葉さん↓



## 発達障害

発達のバランスが他の人と違っているために「困っている」人です。

### LD

知的な発達がアンバランスなために、知的能力は高いのに、それを発揮できないでいる人のことです。日本語にすると学習障害(Learning Disabilities)と言われています。

様々なタイプがあり、みんな同じ特徴を示すわけではありません。

海外ではデスレクシア(読字障害)が有名です。(読むのに時間がかかります。)

俳優のトム・クルーズや映画監督のスピルバーグは本人がデスレクシアと公表しています。

### AD／HD

注意の集中が難しかったり、気が散りやすかったり、じっとしていられなかったり、思った瞬間に行動にでたりすることが、発達レベルに比べて多い人のことです。

注意欠陥・多動性障害(Attention-Deficit/Hyper-activity Disorder)の略です。

(秋田LD, AD/HD親の会・「AINシュタイン」HPより抜粋)

# 大井町から教育を考える会(OKK)主催 第14回教育講演会＆中学高等学校相談会

2019年11月3日(日) 於：アワーズイン阪急

報告：鈴木 正之 (いぶき学院)

今年で第14回を迎えた相談会。昨年まで2年間参加していた都立高校が抜け私立校28校が参加となりました。お陰様で来場者数は昨年を上回り良いイベントとなったと思います。

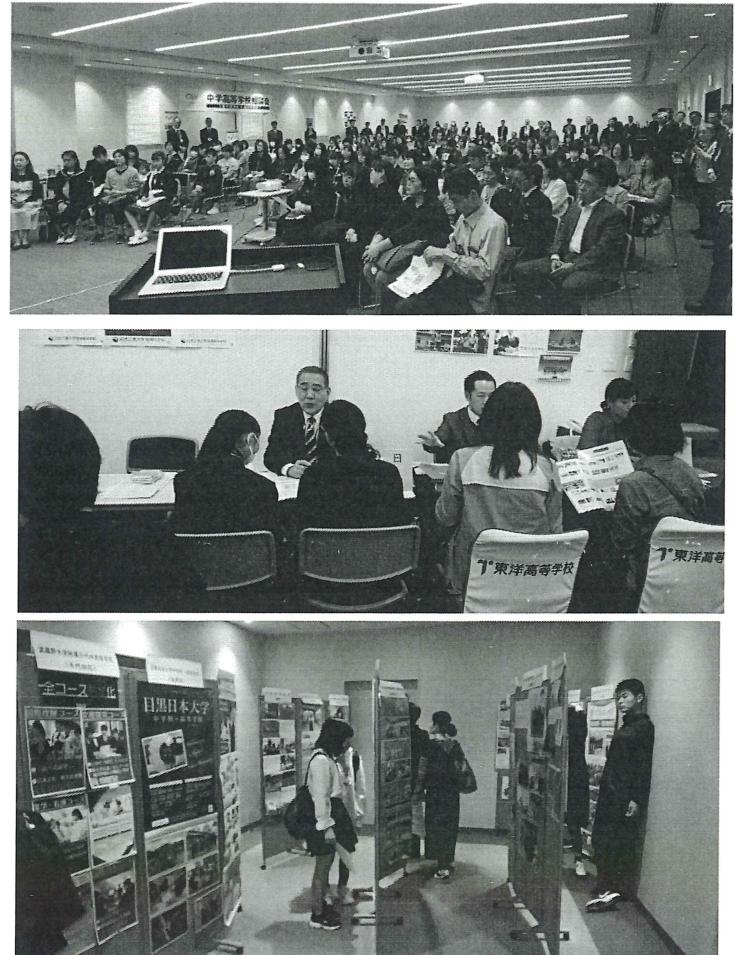
OKKを知らない先生方に少しだけ紹介させていただきます。

発足は平成14年、経緯は、教育でしか社会は変えられないという考え方を基に、「①街を良くするためには教育の力が不可欠であり、小中学生の素行の改善と学力、人間力の向上を図る必要がある。②そこに学習塾が貢献できるはずである。ただ、1つの学習塾だけでは全体を変えることはできない。③地元の学習塾、とりわけ近隣の学習塾が塾生の奪い合いをするのではなく、社会貢献という共通の目的のために協力し合うことが必要である。④学習塾と私立中高が、対話（含情報交換・研修）を通して互いに高めていくことが出来る。⑤学習塾、私学、企業、団体、商店街、個人、そして公立学校が一丸となって、子供たちを育てていくことが大切である。」として、品川区大井町で当初6塾が集まり発足式を執り行いました。

その後、私学も塾と同等に会員として活動できないかと考え、私学に声をかけ私学は立場上賛助会員と言う立場で参加していますが、内部的には完全に同等の会員です。

役員も塾とか学校とかと言う枠を取り払った陣容で、何と言っても某私学を退職された、辰巳順子先生が副理事長として活躍しているところが個人的には嬉しいところです。員外理事には声の教育社の三谷潤一さん、私塾ネット会計部長の鈴木学さんも名を連ねています。私塾ネット副理事長の中村直人先生も情報交換会や相談会の際には毎回出席されています。

そのOKKの最大イベントが「教育講演会＆中学高等学校相談会」です。品川区と品川区商店街の後援をいただきましたが、今回特筆すべきところは品川区教育委員会が動いてくれたことです。品川区の義務教育学校（品川区では昨年度から小学校、中学校がなくなり、小中一貫の義務教育学校となりました）に、OKKの案内を全校配布となったのです。品川区と言えば、全国で最初に公立小中学校の改革を実行している自治体です。学区の撤廃、小中9ヵ年教育などです。私立中受験は盛んですが推奨しているわけではありませんし、出来れば学習塾に通わないで済むようにしようと思っている自治体です。その品川区の教育委員会が、学習塾と私学の集まった団体のイベントに協力してくれたことは大きな意義があると思っています。



上:講演会に聞き入る入場者の皆さん 中:個別入試相談風景  
下:展示会「写真で見る私学ギャラリー」

OKKがやっていることは、日本では他にどこもやっていないこと（やれていないこと）であり、これが日本中に広まれば、日本の未来が大きく変わることです。その考えを共有している先生方が学校とか塾とかの枠を超えて一生懸命やっているのがOKKです。

相談会終了後の、慰労会、そして2次会がありましたが、その最後の2次会で、「金儲けとか生徒集めとかではなく、子供たちのためにこれからも頑張りましょう」と大声で会を締めた伊庭先生が印象的でした。OKKは品川区が“ONE TEAM”となって子供達を育んで行けるよう活動していきます。

**【2019年度大井町から教育を考える会(OKK)の概況】**  
**会員・協賛・協力:** 学習塾5塾・私学26校・個人1人・相談会協賛企業団体4・他塾協力3塾  
**役員(敬称略):** [理事長]木谷朝子、[副理事長]辰巳順子、阿部光雄、鈴木清彦、[専務理事]鈴木正之、[常任理事]今田正利、衛藤康弘、伊庭崇、河村文夫、今野巖、羽鳥光昭、[顧問]實吉幹夫、[理事、員外理事]13名

## 緊急特別寄稿 大学入試英語民間試験を考える 教育評論家 小宮山博仁

「身の丈」発言で加速した英語民間試験導入問題は、11月1日、萩生田文科大臣が「自信を持つて受験生に薦められるシステムになっていない」として、導入の延期を発表するに至った。その後の混乱は受験生そして高校の現場さらに塾・予備校に広く及んでいる。私塾ネット顧問である教育評論家小宮山博仁氏に、この件で原稿を寄せていただいた。題して「大学入試民間試験を考える」。では小宮さんのお考えを伺おう。

(編集部)

大学入試共通テストが2020年からスタートする。今までのマークシート方式のセンター試験とはかなり出題方法が異なる。注目されている変更点は、英語の4技能（読む・聞く・話す・書く）と国語及び数学の記述式であろう。英語の4技能重視の教育は、文科省が文部省の時代の20年以上前から、グローバル化した社会に対応するために推進してきた。

すべての日本人にとって、英語の4技能が必要かどうかを考えてみたい。最初に、英語を話す外国人がどのくらい日本にいるかを調べてみよう。日本の在留外国人の数は約240万人（2016年）で、アメリカやイギリスなどの英語圏は推計で約10%である。2018年の外国人観光客は約3100万人で、そのうちアメリカ・オーストラリア・イギリス・カナダなどの英語圏の国は約2743400人であった。計算から推測すると約9%である。日本人で英語の4技能を活用する場面が多い企業は、金融・商社・IT関連会社及び多国籍な大企業の一部の社員であることが予想できる。日本の全労働人口の一部分であることは確かであろう。

このように考えると、英語の4技能を必要とする日本人の数は、かなり限定されることはある。20%にも満たないかもしれない。インターネットを利用することを考えても、「読む・書く」といった従来

の英語力で十分だと思われる日本人は80%近くになる。国の税金を使って、一律に大学入試で英語の4技能を測定しようという発想から改める必要がありそうだ。簡単な会話（聞く・話す）が可能なIT機器も普及しつつあると言われている。

一部の人にとっては英語の4技能が必要であることは明白である。4技能のうち「読む・書く」は、これからも日本人のリテラシーの1つとして今まで通り必要である。しかし「聞く・話す」は個人（幼少の頃は親）の判断で、小・中・高・大及び社会人のどこかで学べばよいのではないだろうか。約50万人もの受験生すべてに英語の4技能の試験をするのは、費用対効果（コスパ）から考えても、再考の余地がある。

さらに4技能のうち「聞く・話す」能力を正確に測定するには、人と時間と機器が必要で、膨大な費用がかかることが予想できる。民間の試験を利用するので、格差の問題も浮上する。マンパワーと費用が今のように限定されるなら、個々の大学での実施がベターと思う。この混乱で一番困っているのは受験生である。受験生を指導する高校の教師や塾の講師も大変であることは言うまでもない。

なお大学入試の英語（4技能測定）と国語及び数学の記述式の問題は、ちがう観点から出発していることは、頭に留めておきたい。

2019年11月12日



9月1日、茅ヶ崎の懇親旅行に参加された際の小宮山氏（右）。ステップの龍井代表と情報交換にいとまがない

### 全日本私塾教育ネットワーク・設立20周年記念 「第18回 全国塾長・職員研修」 ～素晴らしい全国研修～ 令和2年4月19日(日) 「東京ガーデンパレス」

オリンピックイヤー！ そう！ 私塾ネット設立20周年記念大会です。必ず必ず来てくださいね！ その来年の全国研修会は。。。今のところ何も具体化されていません。(T\_T) すみません。<(\_ \_)>

去年のこの時期も同じような事を書いてます。。。さて、どおしようか。。。

2001年(H13年)、何月に私塾ネットは設立されたのでしょうか？

実は自塾 LAPIS 鎌ヶ谷の設立も2001年(12月)。同じく20周年なんです。毎日こつこつやっていたら20年。塾講師生活34年。でも、まだまだ勉強不足です。

昨日(10月30日)、「社是 いい会社を作りましょう」

の「かんてんぱぱ(伊那食品)」の井上修会長にお会いしてきました。会長は、寒天をスタートに「医療」「和菓子・洋菓子」「歴史」について詳細にお話くださいました。その博識ぶりに改めて驚嘆した次第です。いい刺激をいただきました。もっと学んで生徒たちに現実の世の中のことをたくさん伝えたいと、思いを新たにした伊奈訪問でした。

井上会長とのご縁。以前私塾ネットでお呼びした元松下政経塾塾頭、上甲晃先生にいたいたご縁です。私塾ネットの研修でのご縁が各方面に広がっています。みなさまとのご縁もこの私塾ネットでいただきました。有り難いです。有り難うございます。4月19日必ず来てください！

私塾ネットセンター研修部長 田中 宏道

※上甲晃さんの「志ネットワーク」いいですよ。「志ネットワーク 青年塾」には、スタッフの方をぜひ送ってみてください。

## 第5回民間教育推進のための自民党国會議員連盟総会の参加報告

—学校教育と民間教育を繋ぐICT環境整備の推進—

報告：中村直人（私塾ネット副理事長）

令和元年10月11日(金)衆議院第2議院会館にて、民間教育推進のための自民党国會議員連盟 第5回総会が開催された。参加者93名。11時開会。司会は、議員連盟事務局長 衆議院議員の田野瀬太道氏。当日臨時国会及び予算委員会開催中で、開始時は議員連盟会長 下村博文氏は総務会出席中であり、挨拶は後でということで式次第2. から始まる。

### (2)わが国の教育政策に対する提言

公団法人全国学習塾協会会長 安藤大作氏

1. 前回の中心テーマだった「多様な学びの自由化に向けた子供の時間確保(部活動に係わる指導の徹底)」での提言、部活動ガイドラインの徹底においての調査・公表・指導・遵守、この辺りの進捗状況、今後の施策、スケジュールを含め具体的にどうであるかをお聞かせ願いたい。民間教育従事者にとっては、過度の部活動の問題は正が前回からどう変わってきてているのか、現状と今後のスケジュールについて大きな興味を持って注視している。

これに対し、関係省庁のスポーツ庁審議官、藤江陽子氏の答えが次のようにあった。部活動のガイドラインの話を再び説明されてから、その基準に基づき取り組んでいる。特に実際地方自治体や学校において取り組んでもらうことが大事だが、省としては昨年度中に都道府県には中学部活動に対する方針の策定をするよう伝えた。まだ策定していない市町村や学校法人には都道府県を通じて策定してもらうよう促している。取り組み状況のフォローアップが重要だということは認識しているので、紙ベースの把握にとどまらず、地方自治体を対象とした意見交換などを、今年度の早い時期から始めたとのこと。

曖昧な答えに、さらに安藤会長が最後の質疑応答でもう一度食い下がる。朝練・夜練・土日などの過度な部活動や生徒達への心理的強制等の部活動の問題点について、紙ベースの調査・それをふまえた自治体との意見交換は本年度中、指導・遵守は来年度中という認識でよいのかと確認をとると、できるだけ早い時期でとかわされてしまった。結局スポーツ省の出したガイドラインの徹底においては具体的な成果はなく、いつまでにやるというタイムスケジュールも無しということのようだ。

2. 今回の中心テーマ、「学校教育と民間教育を繋ぐICT環境整備の推進」

日本の人口減少化社会・少子化の中で、従来の画一的教育から個別最適型であるべきと言われて久しい。新たなプログラミング教育しかし、そこでのICT環境が教育のみならず教師の業務負担軽減、働き方改革にも重要となってくる。学校が学校内で閉じているのではなく、広く社会に専門性を持つリソース・人材を活用し協力し合っていくことが喫緊の課



左から常石、筒井、森、安藤氏。塾業界を代表して発言された方々

題ではないのか。それにより民間教育との連携もスムーズになり、ICT環境というテクノロジーのみならず人材交流という点も含め、それこそオールジャパンで子供たちの様々な教育環境整備が推進されるものと考える。本日は、全国学習塾協会から2名のICT環境整備の実践の例の講演を用意した。

#### ① 教育現場におけるICTの有効活用に関する政策提言

全国学習塾協会副会長 筒井俊英氏（英進館）

英進館におけるICT活用の状況を動画なども使い具体的にお話をされる。

- 「授業動画の活用」 自前の授業動画活用をさらに進める今後の方向性。Youtubeを使い経費ゼロで、いつでもどこでも視聴可能。具体的に、遅刻・欠席時の活用、遠隔地・過疎地での活用、不登校・入院中の生徒の自学自習教材としての活用、災害時の自学自習教材としての活用、反転学習・予習・復習教材としての活用等に有効と考えている。
- 「ICT導入による作業効率化」 生徒の学習環境の向上、保護者の利便性向上、職員の業務効率化を目指し最新のICT技術を活用した新システムを開発。
- 「他国のICT活用事例」

次に医療現場に見るICT化の成功や課題を引き、教育現場のICT化に関する提言をされる。

その1. 現場の自主性に委ねていては先に進まない。(人は環境の変化を厭う、環境改善には強制力が必要)先生達が、●生徒に目を向け寄り添う時間を増やす。●生徒主体の教育を実現する。

その2. そのために、●国・自治体の強力なイニシアティブで、■エドテック全面導入 ■生徒一人一台のPC導入 それら無しに全国100万人の教師の働き方改革は不可能。

#### ② 学校教育と民間教育を繋ぐICT環境整備の推進

全国学習塾協会専務理事 常石博之氏

「自立学習RED」という、今までの集団・個別塾のメリットをICTを活用してブレンドした自立学習塾を運営。「自分から勉強する力」を育て、生徒ひとりひとりの学力に合わせた学習プログラムを提供。生徒はタブレットを使い自分のペースで学習を進め、教師は生徒をモチベート、分からぬ所の指導サポートをする。その実績として、学習塾における「講師不足→自立学習形態」のニーズ、保護者における「生徒のペースに合わせた学習」ニーズを背景に教室数は急進。

またそれを支える基幹エンジン「eフォレスター」の特徴は以下の通り、:AIを活用した個別最適化学習プログラム:タブレットを使用した学習スタイル:目的は中学校の定期テストの



得点獲得:5教科すべて教科書に準拠。

『未来の教室』という公立中学での「eフォレスタ」の実践授業において、公教育の現場でも「eフォレスタ」の活用が可能との結論が出る。実証校は、都市部・地方都市・過疎地で日本全国横断的に行われている。

具体的に、現在の展開を古川黎明中学校での動画にて流す。民間教育のスプリックスが公教育との連携をICT教育により実践している。

文部科学省・経済産業省・文化省のプレゼンもあったが長くなるので省略。また遅れて後半いらした議員連盟会長 下村博文先生のご挨拶も紙面の関係で省略させていただきます。まことに申し訳ございません。

## 学習塾事例集のこと

私塾ネット副理事 中村直人

7月のネット広報67号において、十亀先生より「学習塾事例集作成の目的と方法」の提案がありました。まったく反応がなく、十亀先生の檄文?を読んでなにも感じないのか、と驚きました。こんなら止めようと思っていたら、鈴木会長が一文を寄せて下さいました。

以下です。（よろしければ、前号の記事も読んで下さいな。）

まずは、知りたいこと、困っていること、取り上げたほうがよいと思われる事例（ここに挙げてないものでも良い）があれば、メールを下さい。集まりましたテーマを整理して広報の次号に発表し、その次の号より一つのテーマに対し、皆さんの対処法や発言を募集します。なるべく実用的・具体的・有用なものにしたいと思います。情報の入り口として、次のメールアドレスを用意しました。長いけれど、ただのローマ字です。[gakushujuku.jireishu@gmail.com](mailto:gakushujuku.jireishu@gmail.com)

鈴木正之（いぶき学院・東京都）

私は賛成です。

我々は長い間培ったノウハウがあります。大手から中堅塾であればシステムが確立されていると思いますが、むしろ近隣の大手塾に対抗して地元に根差してきた中小塾にこそ、子供達本位の回答があると思います。偉い人の話を聞くことも大切ですが、仲間のやつてきたことを聞くことには、それを超越するものがあると思います。目の前にいる偉大な先生たちに目を向けることを忘れてはいけないと考えます。

さて、十亀先生が出された「学習塾事例集」には以下の4つの例がありました。

- ◆宿題は本当に必要か
  - ◆塾の授業は、学校の予習と復習のどちらに重点を置くべきか
  - ◆振りかえ授業／補習…クラスで弱っているのは、欠席者の勉強をどうするかということ。個別指導で弱っているのは、欠席時の振りかえです。別日に来てもらっていますが、簡単に休む生徒がいたり、希望の日が合わなかつたり、決めるのに時間がかかったりしてこれがなかなか困難です。
  - ◆定期テスト対策は皆さんどのように行われているのでしょうか。
- これらについては、解決事例公募とすることを考えます。

私から思いつくままになってしまいますが、問題点を列挙します。

塾経営

- ・クラス分けの方法  
一斉指導で人数が増えてきた場合にクラスを分ける。  
また、増えたからではなく指導する上、運営する上での事情でのクラス分け。
- ・問い合わせから入塾までの流れ  
これも塾ごとに異なると思います。無料体験をしているかどうか、しているとしたらどの

くらいか、どのようにしているのか。又、その理由。

- ・問い合わせ者を入塾につなげるテクニック
- ・月謝未納者対策
- ・費用の集め方
- ・個別指導の時間割の組み方
- ・個人面談は必要かどうか、その理由と必要ならばその手順
- ・保護者会は必要かどうか、その理由と必要ならばその手順
- ・人が集まるホームページとは
- ・講師の突然の欠席への対応
- ・遅刻欠席の多い子への対応
- ・親のクレーム・要求「成績が上がりません」
- ・親のクレーム・要求「補習してください」
- ・親のクレーム・要求「わかるまで教えてください」
- ・自転車置き場、自動車の送り迎え  
自転車の整理に追われたり、車での送迎での問題がないか
- ・家庭との連絡の手段は何がいいか
- ・塾生へのアンケートを実施しているか、しているとしたらその目的と方法
- ・塾生の成績管理の方法
- ・進路指導の方法

教務

- ・宿題をやってこない子への対応
- ・ベテラン講師の授業研修  
ある程度経験を積むと授業研修を受けることを嫌がる
- ・学力差のある子が1つのクラスにいる場合の指導法
- ・授業の始まり方と終わらせ方
- ・自習は必要か、自習システム  
自習できますと告知し、空いている教室で自習させるが、それが苦情となっている塾がある

私塾ねつと誌上句会 第三十六回

ラグビーの死闘後爽やかノーサイド

中村直人

バス降りてイチヨウ散り敷く坂を行く  
（神奈川県）

陽を浴びて斜面を覆う彼岸花

木内恭祐

木内恭裕  
(徳島県)  
なつかしや祖父生誕の菊節句  
陽を浴びて斜面を覆う彼岸花  
彼岸花、別名曼殊沙華は赤い炎状の花をつけ群生する。しば  
しば墓地に植えられることが多いので、死人花、幽靈花とい  
つたありがたくない名で呼ばれることがある。ビロードの  
ような朱赤の花弁はまことに妖艶である。

立冬に北の国から雪便り

長江勝秋

先日、北海道は札幌から初雪の報がとどいた。皆さんではもうお忘れだらうが、今年の夏も暑かつた。札幌もしかりで、記録によれば今年の夏日は18日間とある。おいおい、来年のマラソンは大丈夫か?

鳥のため取り残してや木守柿  
柿たわわ採る者もなき旧家か

谷村志厚

柿たわわ採る者もなき旧家かな  
(千葉県)  
11月初旬の日曜日、神奈川の知人宅で柿もぎの会があつた。その家は大きな農家だが、ご両親がなくなり農業の跡取りがないとあつて、柿畠はほぼ手付かずである。そこでこのへ大取学のサークル仲間が十名ほど集まつた。次郎柿と富有柿を「収穫祭」なる飲み会となつた。晴採天の秋の好日とあつて、またとない贅沢であった。

(千葉県) もぎの会が、なり農業の、ある。そこ  
柿と富有柿会となつた。

編集部からお願ひ

次号は2月上旬発行の春号です。

投句は「お一人3句まで春の季語でお願いします。」

LA-X047-368-2189 各村あや  
締切は1月末日です、ふるって! 投稿ください。

## 閑話休題（編集後記）

編集長 谷村志厚

令和の秋は森羅万象、禍福はあざなえる縄のごとく、なにかと慌ただしい日々であった。自然界では天変地異の風水害、人間界ではラグビー熱の沸騰やら即位の礼に始まる皇室大フィーバー。先日の祝賀御列のパレードでその熱も頂点に達した。そこに冬将軍様のお越しとあって、世間はようやく沈静化の方向に向かう様子。熱しやすくて冷めやすいのは人間界の習いではある◆1ページの仲野理事長のコラムのバック紛失のくだり、他人事ならずと胆を冷やした。数年前だが私にも同様の経験がある。預金通帳にカード、現金に領収書類の入ったサイドバックを紛失したのである。塾の玄関わきのベンチに置き忘れたのだが、気づいた時にはすでにない。紛失といふより盗難ということであったので、当然警察ざたとなつたのだが。情けないことに未解決のままとなつてゐる。警察とのやり取り、カードの差し止め、通帳の再発行手続きと、やっかいな思いをしたことを仲野さんの一文で思い出した。ちなみにバックを置き忘れたベンチには、当時我が塾の看板犬だったラブラドル・レトリバーをつないでおいたのだが…。ずいぶんと人懐っこい犬でしたのでね。それに犯人は、大型犬の扱いに慣れている愛犬家だらうと推測している◆6ページ掲載の茅ヶ崎懇親旅行、今年は体調不良のため欠席してしまった。湯口さんが四国から、安藤・扇野さんが青森から、遠路お越しいただくのにご挨拶もできず、失礼なことをしてしまつた。それにステップの高橋さんにも迷惑をおかけした。例年高橋料理長の下で調理させていただくのが当方の役目でしたからね。さて今回は高

橋料理長、何をメインに調理されたのやら。それを味わえなかつたのが、いつそう口惜しい◆8,9ページ掲載の研修会は、そのテーマもさることながら、まことに記念すべきものである。なにしろ、これまである種のライバル関係であった、N P O 塾全協さんとの合同研修会の形で行われたのである。塾全協さんとの交流は数年前から水面下で始まっていた。幹部役員による話し合いの場も数度ならずもたれており、連絡網もできている。今回初めて顕在化した両団体の交流の火種が、さてどのように広がっていくのだろうか。街の学習塾受難の時（私見）にあって、千載一遇の出来事だと思う。今後の進展に期待し注目したい◆11ページに教育評論家小宮山博仁さんの緊急特別寄稿を掲載した。なにしろ11月12日に投稿を依頼し、翌日の編集に間に合わせ、14日には印刷という「週刊誌」なみにスピード。「緊急」の冠に間違いはない。こんなことが出来たのは、6ページで紹介の茅ヶ崎懇親旅行に小宮山さんが参加されていたからこそ。そこで「厚かましくも」渡辺関東代表が緊急の投稿依頼をかけたという次第。小宮山さんありがとうございました。渡辺さんお手柄でした。さて、そのテーマは今教育界を揺るがす大学入試英語民間試験導入延期間題とタイムリー。とくとご熟読を◆12ページで中村直人副理事長が議連総会の内容を詳細にレポートしてくれた。お尻をたたいて14日朝入稿した。これも緊急入稿もの。アングルのよい写真も添えていただいたが、こんな几帳面なことができるるのは、エリア関東広しといえど、彼ららしいものだろう。ありがとうございました。さすが直人さん！とこの位持ち上げておけば、また助けてくれるかな。

# 私塾ネットセンター 事務局通信



事務局長補佐 中村庸彦(中村学院)

先日、私塾ネット関東の研修にて「インクルーシブ」と言う言葉を教えていただきました。ちょうどその1週間ほど前に、子供を連れて映画を観に行きました。ちなみに映画は「天気の子」。とても面白く、子供も感動していました・・・。今回はその話ではなく、駅でふと立ち寄った本屋で見つけたこんな本のことです。「ケーキの切れない非行少年たち」(宮口幸治著)とりあえず手に取り、さっと読んでみたところ、とても興味深い。思わず衝動買いをしました。手持ちのカバンが小さいものの、文庫版でしたので無事に入ってくれたのはこれ幸い。そのさっと読んだ時に興味深かったのは、題の通り「ケーキを三等分できない」ということ。少年に紙に書いた円を三等分すると言う作業をやらせたところ、まず真ん中に線を入れ、二等分にして、そして、そして、頭を抱えてしまうそうです。

研修の中でも実際に読みづらさや聞きづらさを疑似体験させていただきました。三等分できないと言う事実と～づらさの体験から見えるのは、家庭や教育や社会の中で見落とされていた軽度の発達障害や学習障害の存在。私も記憶があります、生徒に対する「よく読めば分かるだろう!」と言う叱責。果たして、正しいアプローチだったのか?

先日、当学院にて面談が多数行われました。その中で、何名かの保護者の方より、「子供がこんなことを思っていたなんて知らなかった。」とのご意見を頂きました。普段から近くにいる生徒とその保護者の方では、その近さから、本音を言い合えることはなかなか難しいですし、さらに保護者の方は子供のことが「分かっている」ことが前提で話しされていることが多いことでしょう。しかし、「分かっている」ということはとても難しく、面談のような客観的な第三者がいることで、生徒は思っていることを話せて、保護者の方は感情的にならずその話を聞ける。そんな場を作れたのは良かった感じました。

本の中で彼らが変わっていったきっかけが書いてありました。その一つは自分への、他者への、社会への理解です。研修の中で、感じたことは、やりづらさを持っている人がいることへの理解です。

先生というものは、さも色々なことを分かっている、理解しているということを前提で授業をし、生徒と接します。しかし、理解をするということはそんなに簡単なことではないと思っております。今回の研修でも、購入した本でも、面談の中でも、いかに理解が難しいか、それでも、理解することが重要なのか、肌身に感じました。

「どう読んだのか、確認をしてみたいから音読をしてみて。」こんな言い方ではどうでしょうか?

れかつ酒キうかて月直人さんのは命の木が葡萄で表現されることがあります。またワ  
がりでがりで、置シ、出た。張村の句の添え書きに「キリスト教に限らず、またワ  
小で、そかタ夢想され内信者としてのパントムの血と象徴されることもふまえ  
生の子供と隠して集まらない少年には、唱和する讃美歌さんが我が家で歌う。母親としある。母親としある。母親としある。  
「愛飲家」としての嘴矢では飲めるもので、歌くは行だなるわが町れ、キ酒礼酒  
（志）つはないと、イーイン祭壇に詠歌くは行だなるわが町れ、キ酒礼酒  
（志）といは葡萄れよ町れ、キ酒礼酒  
（志）こばや葡萄れよ町れ、キ酒礼酒  
（志）



ちぎり絵歳時記 15 (葡萄) 作画・中村光江

生命の木 みのり葡萄の酒となり (直人)

## 賛助会員一覧（順不同）

<b>関東国際高等学校</b>	村山サンドラ先生 TEL03-3376-2244
東京都渋谷区本町3-2-2	
<b>東洋高等学校</b>	石井 和彦先生 TEL03-3291-3824
東京都千代田区神田三崎町1-4-16	
<b>桜丘中学高等学校</b>	高橋 知仁先生 TEL03-3910-6161
東京都北区滝野川1-51-12	
<b>聖徳大学附属女子中学高等学校</b>	川並 芳純先生 TEL047-392-8111
千葉県松戸市秋山600	
<b>麹町学園女子中高等学校</b>	上田 翼 先生 TEL03-3263-3014
東京都千代田区麹町3-8	
<b>春日部共栄中学高等学校</b>	宇野 穎弘先生 TEL048-737-7611
埼玉県春日部市上大増新田213	
<b>東京立正中学高等学校</b>	安原 正樹先生 TEL03-3312-1111
東京都杉並区堀ノ内2-41-15	
<b>八雲学園中学高等学校</b>	横山 孝治先生 TEL03-3717-1196
東京都目黒区八雲 2-14-1	
<b>武蔵野中学高等学校</b>	浅見尚次郎先生 TEL03-3910-0151
東京都北区西ヶ原4-56-20	
<b>和洋国府台女子中学高等学校</b>	広報部長 様 TEL047-371-1120
千葉県市川市国府台2-3-1	
<b>東洋大学付属京北学園</b>	井出 秀己先生 TEL03-5948-9113
東京都北区赤羽台1-7-12	
<b>大森学園高等学校</b>	三浦 圭 先生 TEL03-3762-7336
東京都大田区大森西3-2-12	
<b>東京成徳大学中学高等学校</b>	野中 修也先生 TEL03-3911-2786
東京都北区豊島8-26-9	
<b>日本工業大学駒場中学高等学校</b>	河村 文夫先生 TEL03-3467-2130
東京都目黒区駒場1-35-32	
<b>青稜中学高等学校</b>	伊東 充 先生 TEL03-3782-1502
東京都品川区二葉1-6-6	
<b>東京女子学園</b>	実吉 幹夫先生 TEL03-3451-6523
東京都港区芝4-1-30	
<b>駒込中学高等学校</b>	河合 孝允先生 TEL03-3828-4141
東京都文京区千駄木5-6-25	
<b>愛国中学高等学校</b>	高橋 英夫先生 TEL03-3658-4111
東京都江戸川区西小岩5-7-1	
<b>安田学園中学高等学校</b>	二木 健嗣先生 TEL03-3624-2666
東京都墨田区横綱2-2-25	
<b>日本音楽高等学校</b>	伊庭 崇 先生 TEL03-3786-1711
東京都品川区豊町2-16-12	
<b>立正大学付属立正中高等学校</b>	今田 正利先生 TEL03-6303-7683
東京都大田区西馬込1-5-1	
<b>上野学園中学高等学校</b>	高橋公三子先生 TEL03-3842-1021
東京都台東区東上野4-24-12	
<b>二松学舎大学付属高等学校</b>	車田 忠繼先生 TEL03-3261-9288
東京都千代田区九段南2-1-32	

### 村田女子高等学校

遠藤 賢 先生  
TEL03-5940-4455

### 自由学園（中等部・高等部）

更科 幸一先生  
TEL042-422-3111

### 京華学園

今野 巍 先生  
TEL03-3941-6493

### 武蔵野大学千代田高等学院

岡田 孝子先生  
TEL03-3263-6551

### 目黒日大中学高等学校

天野 正貴先生  
TEL03-3492-3388

### 共栄学園中学高等学校

松宮 博 先生  
TEL03-3601-7136

### 中村中学校・高等学校

富田 義道先生  
TEL03-3642-8041

### 文教大付属中学高等学校

神戸 航 先生  
TEL03-3783-5511

### 国際高等専門学校

松尾 多郎先生  
TEL076-248-1080

### 株私塾界

山田未知之様

豊島区東池袋1-39-1三善ビル  
TEL03-3987-0838

### 株S R J

板橋 玲 様

中央区京橋3-12-7 京橋山本ビル9F  
TEL03-6865-6380

### デザインオフィスズキ

鈴木 学 様

千葉県柏市柏687-6  
TEL04-7164-8276

### 株エヌケーションナルネットワーク

稻垣 憲之様

千代田区富士見町2-11-11 峰ビル3F  
TEL03-5275-2101

### 株POPER

栗原 慎吾様

千代田区東神田2-1-8秋葉原クロスサト  
TEL03-6265-0951

### 株塾と教育社

加藤麻由美様

東京都千代田区飯田橋4-4-8-310  
TEL03-6265-6855

### 株式会社 ブックモールジャパン

攬上 聰 様

埼玉県戸田市上戸田4-2-33  
TEL048-447-7457

### 教育開発出版株式会社

糸井 幸男様

東京都杉並区下高井戸1-39-12  
TEL03-3304-5321

### 株式会社ナイス

佐藤 秀樹様

横浜市都筑区中川1-20-1  
TEL03-3304-5321

### (株)クロノクリエイト

添田 大亮様

渋谷区神宮前5-52-2 青山オーバルビル  
TEL03-5468-6986

### (株)声の教育社

中村 千尋様

新宿区新小川町8-15  
TEL03-5261-5061

### エスディーエムコンサルティング(株)

坂尻 俊樹様

調布市入間町1-31-23  
TEL03-3484-1212

### ソルナ株式会社

森 雅人様

中央区築地2-9-4 SOLUNABLD  
TEL03-6721-1861

### アロー教育総合研究所

古川 貴央様

千代田区神田小川町3-8 神田駿河台ビル5F  
TEL03-3259-2851